

第4回かながわ教育学講座

9月23日(日)総合教育センターにおいて、第4回かながわ教育学講座が開催されました。今回のテーマは「いま求められる授業」です。新学習指導要領が示され、小学校は移行期間に入り、中学校、高等学校も順次移行されます。いま求められる授業の在り方や、児童・生徒に育てたい力について講義やグループワークを通し、学びました。

いま求められる授業

今回は、神奈川県をめざすべき教職員像の3つの要素の1つ「授業力」について取りあげ、授業の在り方や育てたい力について学び、授業づくりについて考えました。

はじめは、2会場に分かれ、総合教育センター 教育人材育成課 向原 俊幸 指導主事と井上 登志子 主幹兼指導主事より、講義がありました。

講義では、教員に求められる授業力として、「子どもが自ら取り組む、わかりやすい授業の実践」が求められていること。しかし、人工知能(AI)やビッグデータなどの先端技術が高度化して、社会の在り方そのものが劇的に変わり、AI等と共存していく社会がやってくることで、だからこそ学びの在り方の変革、すなわち授業の在り方の変革が求められているとの話がありました。

続いて、いま求められる授業に係るキーワードである学力の三要素や新学習指導要領の動向を踏まえ、学びに主体的に取り組んだり、他者との対話を通じて考えを広めたりして、身に付けた資質・能力が様々な課題の解決に生かせる実感できるような「主体的・対話的で深い学び」を実現していくための授業改善が求められていると説明がありました。

また、授業を考える時には、「どのような授業をすればよいか」を考える前に、「どのような児童・生徒を育てたいか」を考えることが重要であること、育てたい児童・生徒像を考えることで、授業の組立が明確になり、児童・生徒に伝えたいことがはっきりとした分かりやすい授業になると具体的な授業づくりについても学ぶことができました。

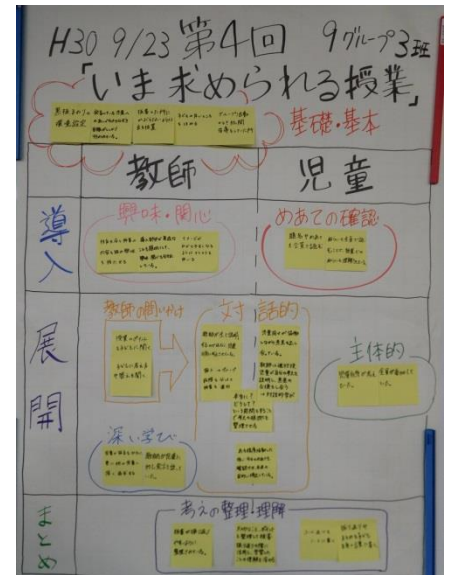
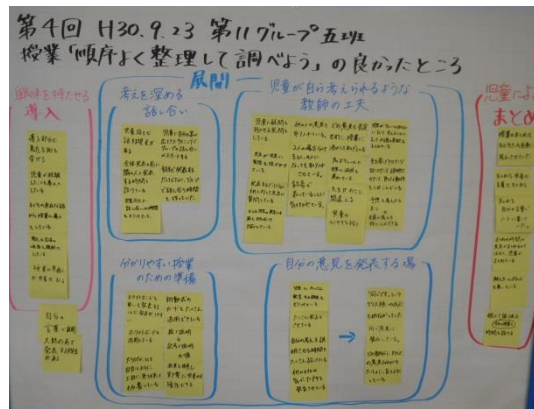
講義の後に、大講堂では小学校算数科の授業、中講堂では中学校理科の授業が上映され、受講者は希望によってどちらか1つを視聴しました。受講者は、視聴しながら参考になると思ったところを書きとめました。自分が行う模擬授業をイメージしながら、真剣なまなざしで動画を視聴する様子が見られました。「いま求められる授業」について、より具体的に考えることができたと思います。



グループ活動

はじめに、前半の講義の中で視聴した授業の動画から、参考になると思ったところについて、付箋に書き写しました。その後、互いの意見を交流しながら、主体的・対話的で深い学びがどのように取り入れられているか、教材・教具の工夫、学習環境の整備、学習規律の徹底、指導者の投げかけや受け止め方、板書などといった視点で整理し、模造紙にまとめました。意見を交流することで、よい授業の理解が深まり、めざす授業のイメージを広げることができました。

そして、カテゴリーによる分類を用いての協議も、今回で3回目となりました。回数を重ねてきたことで、どの班も慣れた様子で進めていました。授業の時系列に沿ったまとめ方をしたり、キャラクターやイラストを用いて、内容を構造化してまとめたりしているグループもあり、グループでの協議の内容が、一目で見て人に伝わるように工夫されているのが、印象的でした。



また、発表においても、各グループによって屋台方式での発表や全体に向けての発表などそれぞれの発表方法は異なりますが、役割を分担し、ポイントを押さえて発表したり、聞き手の反応を見ながら発表したりと、回を追うごとに上手になっている様子が見られました。



限られた時間の中で、必要な情報を精選しながら伝えることや、人に分かりやすく伝えたりすることは、様々な場面で大いにいきることでしょう。

ぜひこの経験を、スクールライフサポーターの派遣先や実践力向上講座の取組など、多くの場面でいかしてほしいと思います。

受講者の感想から

- ・実際の授業の映像を視聴でき、主体的・対話的で深い学びの視点で授業をみることができました。
- ・子どもの目線と教師の目線で授業を見ることで、こんなにも違うんだと思いました。
- ・グループワークをすることによって、多くの人の意見を聞くことができ、気づくことが多かったです。
- ・自分の目指す教科の授業も、これから見ていきたいと思いました。